

2019年6月5日

腫瘍外科の外来診療あるいは入院診療を受けられた患者さんへ

「大腸癌肝転移に対する再肝切除治療成績の検討 : 単回肝切除症例との比較」 への協力のお願い

腫瘍外科では、過去に下記のような診療を受けた患者さんの試料・情報を用いた研究を行います。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

研究の対象:

2004年6月から2018年12月までに当科で大腸癌肝転移に対して肝切除術を受けられた方

研究期間:

倫理審査委員会承認日～ 2020年3月31日

研究目的・方法:

大腸治療ガイドラインでは、切除可能な肝転移には肝切除が推奨され、肝切除の適応基準は『①耐術可能②原発巣が制御されているか、制御可能③肝転移巣を遺残なく切除可能④肝外転移がないか、制御可能⑤十分な残肝機能』の5因子が挙げられています。残肝再発に対する再肝切除では21～48%の5年生存率が報告されており、再発例に対しても前述の適応基準に照らして、切除を考慮する必要がありますが、残肝再発も多く、どのような症例の再発リスクが高いかは、まだ完全には明らかにはされていません。また近年の分子標的薬をはじめとする、化学療法の進歩も目覚ましく、残肝機能および次回の再肝切除を考慮して、肝切除を行うことが重要な課題です。当科で大腸癌肝転移に対して再肝切除術を施行した症例を、1回のみ肝切除を施行した症例(単回肝切除群)と、臨床的特徴・手術成績・予後について比較検討して、再肝切除成績と再発高リスク群を明らかにすることを目的とします。

研究に用いる試料・情報の種類:

- ① 年齢、性別、BMI、肝切時 ICG, CEA, CA19-9 値などの術前情報
- ② 術式の詳細 (解剖学的切除、非解剖学的切除の有無など)
- ③ 手術時間、出血量、輸血や血液製剤の使用の有無
- ④ 術後在院日数
- ⑤ 再肝切除後の再発形式や再発診断日、最終生存確認日、原病死の有無

研究への参加辞退をご希望の場合

本研究に関して新たに患者さんに行っていただくことはありませんし、費用もかかりません。本研究に関する質問等がありましたら以下の連絡先まで問い合わせください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の連絡先まで申し出ください。なお、本研究は、岐阜大学大学院医学系研究科医学研究等倫理審査委員会の承認を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって当科における診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

研究から生じる知的財産権の帰属と利益相反

研究者及び岐阜大学に帰属し、研究対象者には生じません。研究の結果の解釈および結果の解釈に影響を及ぼすような「起こりえる利益相反」は存在しません。

連絡先

岐阜大学医学部附属病院 腫瘍外科

電話番号 058-230-6233

氏名： 田中 秀治

研究責任者

岐阜大学医学部附属病院 腫瘍外科

氏名： 吉田 和弘